

奄美市笠利町の佐仁小学校（花房八重子校長、児童11人）で7日、「奄美の自然を学ぶ環境学習会」がありました。講師は奄美市名瀬小湊在住の西真弘さん（47）。奄美の森林に生息する生き物の様子を紹介しながら、身近にある自然の大切さを分かりやすく伝えました。

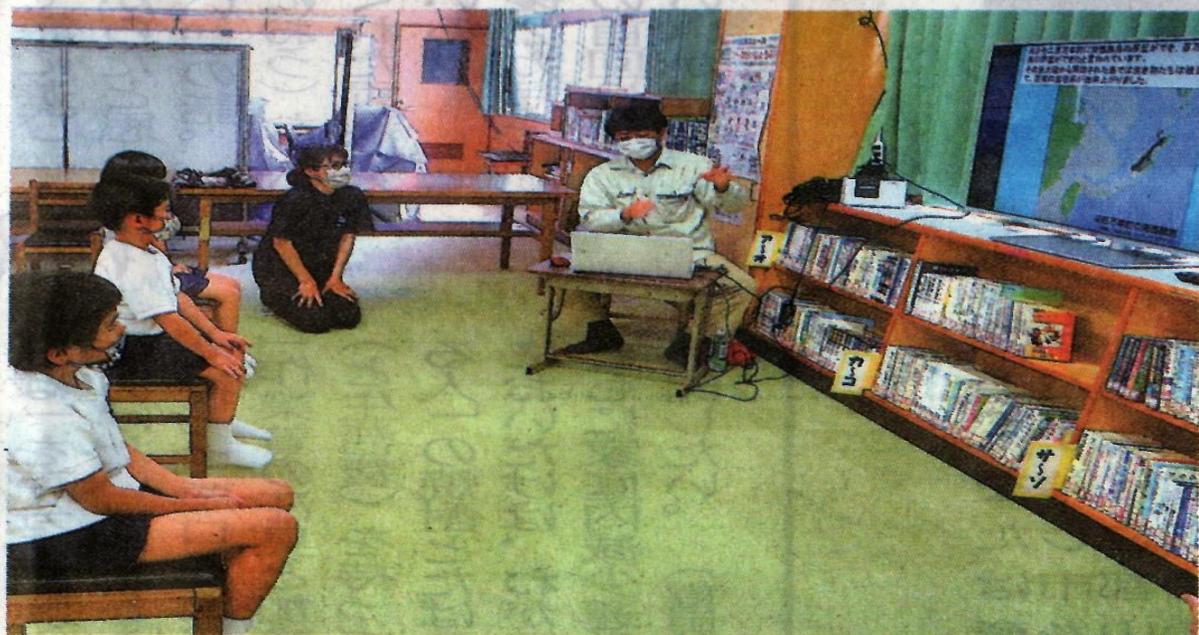
同校では、県の研究指定を受け、オオゴマダラの飼育観察活動を通して環境教育を推進しています。環境学習会は、その一環として行われました。

講師の西さんは、外来種駆除活動に携わる傍ら、昆虫調査を行ったり、ナイトツアーガイドをしたりしながら、奄美の豊かな自然を多くの人々に伝えています。

児童たちは大型液晶テレビに映し出される奄美固有の生き物たちの写真に興味津々。▽固有種が

大切な奄美の自然を学ぶ

佐仁小で環境学習会



奄美の自然について学ぶ児童＝7日、奄美市笠利町の佐仁小学校（提供写真）

奄美市
笠利

多いのは奄美大島の成り立ちにも関係がある▽シイの実とミミズが豊富なことなどが生態系を支えている▽ハブを頂点として生き物たちがバランスよくつながり合っているーな

多、奄美の自然の仕組に関する話にも、うなずきながら聞き入っていました。西さんは「奄美の豊かな自然を守っていくためには、ノネコなどの外来種を自然に持ち込まない

た。西さんは「奄美の豊かな自然を守っていくためには、ノネコなどの外来種を自然に持ち込まない



おめでとう!

令和2年5月14日（木）

だい 第4号 ころ



なんかいにちにちしんぶん
南海日日新聞の3面にのいました。